

【石山先生の講評要旨】

発表を聞いた感想として、良い授業とは子どもたちの目が輝き、前のめりになって主体的に考え始める授業である。今回の発表はそのような授業の姿を示しており、子どもたちにとって有意義な学びになっていると評価してくださいました。

助言として、新聞を活用した学習で「最終的に何ができるようになるのか」という目標をより明確に示すことが重要だと指摘。その際、授業全体の目標だけでなく、各教科や活動ごとに身につける力を整理し、それらを積み重ねて最終的な目標に結びつけることが大切である。また、複数学年で取り組む場合は、学年ごとの到達目標を段階的に設定することで、指導や評価が行いやすくなる。さらに理想的には、小学校・中学校・高校の連携によって発達段階に応じた学びを構築することも望ましいと助言してくださいました。

そして最後に、中立性や多様性、平和学習について触れ、多様な意見を扱う際には、予定調和的な結論に導くのではなく、異なる意見をどう受け止めるかが重要な課題であると指摘されました。新聞など多様な資料を活用しながら、さまざまな考え方に触れる学びが必要であるとお話くださいました。